

介護現場革新会議資料

北九州市

介護施設等における生産性向上に資するパイロット事業<北九州市> (案)

少子高齢化に伴い全国的な課題となっている介護人材不足への対策として、人とテクノロジーの融合による新たな介護の働き方（北九州モデル）の構築をめざし、

1. 北九州モデルの具体化（事業仕分け・ロボット・ICT・元気高齢者活用の三位一体効率化）、
 2. 介護記録、見守りセンサー等のプラットフォーム化の実現（ロボット・ICTの活用）、
 3. 人とテクノロジーが融合して実現する先進的介護ワークショップ開催（介護業務のイメージ改善）、
 4. 介護ロボットマスター育成講習の実施、
- に取組み、令和2年以降の北九州モデルを広げる横展開へとつなげていく。

1. 北九州モデルの具体化

（事業仕分け・ロボット・ICT・元気高齢者活用の三位一体効率化）

（1）介護ロボット・ICTの可能性を効果的に活用した先進的介護の目標像の具体化

実証で確認できた介護ロボット・ICTの可能性を効果的に活用し、日中及び夜間介護を改革する仮説を基にした実証・分析を行い、理想的な介護現場（人員配置・業務シフト）を具体化し、先進的介護の目標像を構築する。



70代の女性介護職員による移動支援機器の操作（平成29年度実証）



（2）介護施設が行う介護ロボット等を活用した働き方等の好事例の提示

北九州市の実証施設（特別養護老人ホーム）が、平成30年度までの介護ロボット・ICTの導入実証を通じて実施してきた働き方改革を、業務上の課題の発見から導入機器の決定、その効果等についてまとめ、北九州モデルの横展開に向けた好事例を作成する。



見守り機器（平成29年度実証）



2. 介護記録、見守りセンサー等のプラットフォーム化の実現

（ロボット・ICTの活用）

介護記録・見守りセンサー等をプラットフォーム化し、センサー情報や介護記録を自動集約する実証を行い、介護現場のアプリ統一やデーター分析による対象者のQOL向上にむけた支援等を目指す。

3. 先進的介護ワークショップの開催

（介護業務のイメージ改善）

地域団体や学生など幅広い世代に北九州市の目指す介護モデルを提案し、新たな介護の担い手を創出するためのワークショップを開催し、幅広い世代・多様な人材が介護の魅力を感じてもらえる方策を発信する。

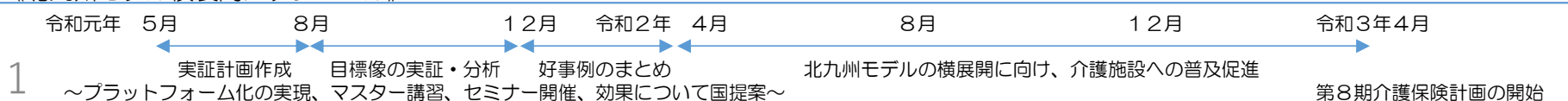
4. 介護ロボットマスター育成講習の実施

介護ロボット・ICTを効果的に活用できる介護の専門人材を育成する。



介護ロボットマスター育成講習（平成29年度）

《北九州モデル横展開スケジュール》





北九州市における先進的介護の実証実装

【全国的な課題】

- 北九州市の高齢化率（30.1%：平成30年3月末）は全国（28.0%：平成30年4月1日）より高い
- 少子高齢社会の進展に伴う生産年齢人口の減少や、介護現場の労働環境などによる介護職員の離職等を背景に介護人材の確保は喫緊の課題

【北九州市のポテンシャル】

- 本市の高齢者施策に関する医療・保健・福祉関係者の経験と実績
- モノづくりの都市として発展（高い技術力・企業集積等）
- 学術研究機関の集積（産業医科大、九州栄養福祉大、九州工業大、学研都市等）

国家戦略特区制度等の活用

平成28年度から

介護ロボット等を活用した先進的介護の成功モデルの創造・発信

北九州市の目指す介護（＝先進的介護）の実現

介護職員の
負担軽減

介護の質の向上
（入居者の自立支援）

高齢者等新たな
雇用機会の拡大

+

地元の産業振興

介護ロボット
産業の振興



介護イノベーション（北九州モデル）

人（介護職員）とテクノロジー（介護ロボット等）による
介護現場のイノベーションを起こし、
入居者の生活の質の向上や介護ロボット産業の振興を推進！

目指すのは

人と介護ロボット等が創る入居者の生活の質の向上

介護施設は、入居者一人一人に適切なケアを提供するとともに、
入居者の日常生活の場として身体的、精神的、時間的にゆとりある
空間であることが必要。

高齢者等の多様な人材、介護ロボットやＩＣＴ等の活用による
介護現場の働き方改革を進め、介護職員の心身のゆとりを生み出し、
入居者の暮らしの充実を目指す。



介護ロボット等を活用した 介護イノベーション （北九州モデル）

【方針１】

介護ロボット等を使いこなす**新たな担い手づくり**

【方針２】

新たな担い手による**新しい介護現場づくり**

【方針３】

人と介護ロボット等との共存による**生産性の向上**





介護ロボット等を使いこなす新たな担い手づくり

【方針1】 介護ロボット等を使いこなす新たな担い手づくり

…介護ロボットやICT等を活用することで、抱え上げない介護や必要のない訪室回数の削減などが実現でき、介護職員の心身の負担軽減を図ることが可能となる。

そこで、**介護ロボット等を使いこなせる多様な人材（高齢者や子育て中の女性、障害者等の雇用機会の拡大）**や**ロボット活用を推進できる高度人材の育成**など、新たな介護の担い手の誕生を促進する。

《主な取組み》

- ・ 介護ロボットを活用した介護手順書（マニュアル）の作成
- ・ **介護ロボットマスター育成講習の高度化（階層別マスターの養成）**
- ・ **『軽労化』による新しい同世代介護の確立**
- ・ 出産、子育て等により介護現場から離職した人材の掘り起こし



介護ロボットマスター育成講習（平成29年度）



70代の女性介護職員による移乗支援機器の操作
（平成29年度実証）



新たな担い手による新しい介護現場づくり

【方針2】新たな担い手による新しい介護現場づくり

…介護施設の課題解決に適した介護ロボットやICT等を導入した新しい介護現場を創造し、介護職員の心身の負担の軽減や入居者のケアへの集中、専門性や働き甲斐が高まる環境づくりを構築する。

- ・「見守り」「情報共有」「記録」等のICTによる安全・安心な介護現場

- ・「抱え上げ」「排泄」「コミュニケーション」等を支援するロボットによる快適さの創出 等

また、現場ニーズにより即したものとなるよう、開発メーカーによる改良、開発を支援する。

《主な取り組み》

- ・介護ロボット導入マニュアルの作成

- ・**介護ロボット活用のPDCAサイクルの作成**

- ・**先進的介護施設構想の検討**

- ・現場ニーズの開発メーカーへのフィードバックの支援



コミュニケーション機器（平成28年度実証）



見守り機器（平成29年度実証）



人と介護ロボット等との共存による生産性の向上

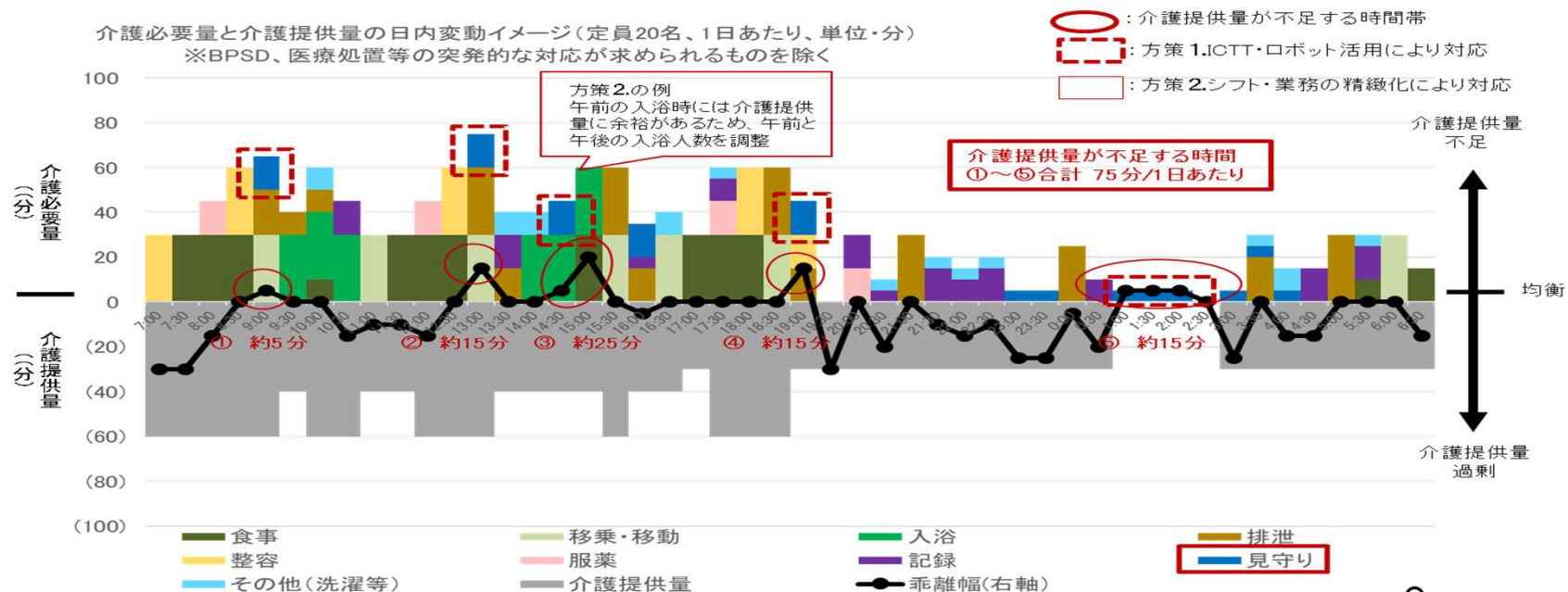
【方針3】 人と介護ロボット等との共存による生産性の向上

…多様な人材や介護ロボット等の活用による働き方改革を検証し、介護現場の生産性の向上を進める。

また、介護ロボット等を有効に活用し効率的な業務を実現できるよう、介護保険制度の見直しなどを国に働きかけるとともに、介護ロボットの普及を促進する。

《主な取組み》

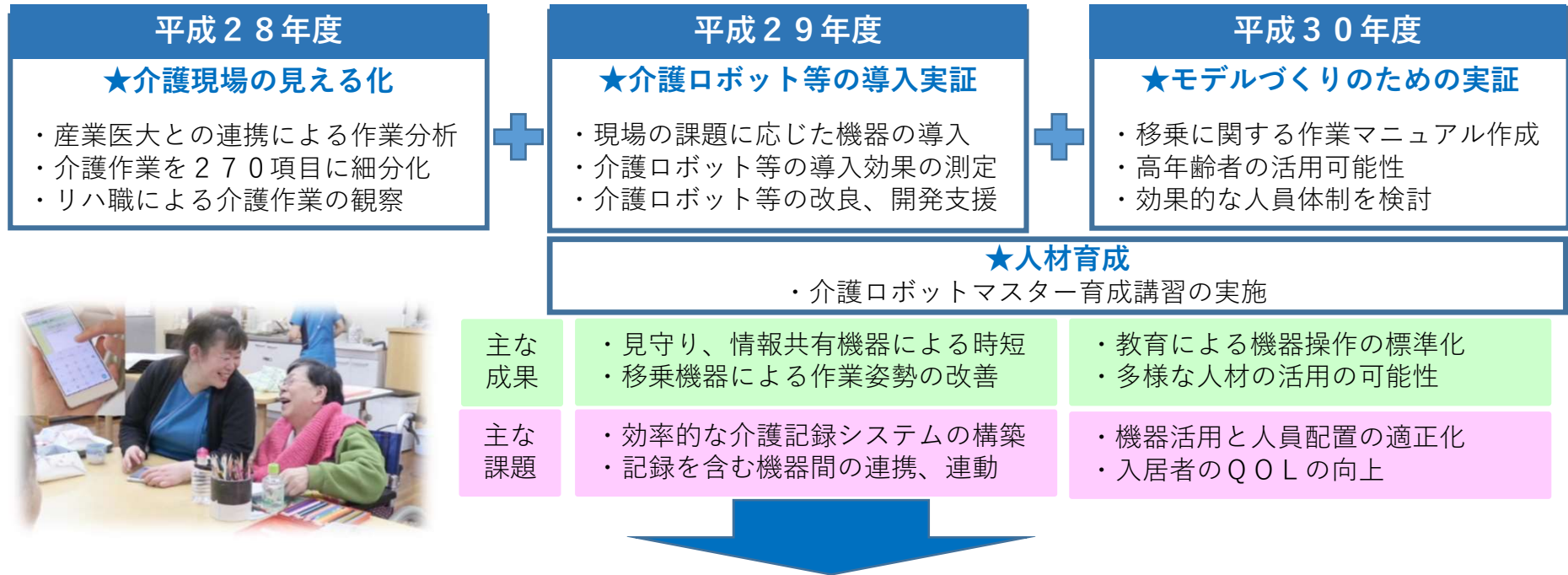
- ・人とロボット、正規職員や高齢者、有償ボランティア等による効率的な勤務シフトの検討
- ・多様な人材やテクノロジーを有効活用した人員配置の検討
- ・効率的な施設運営マネジメント手法の検討
- ・国に対する提案（人員配置や介護ロボット導入マニュアルなど）





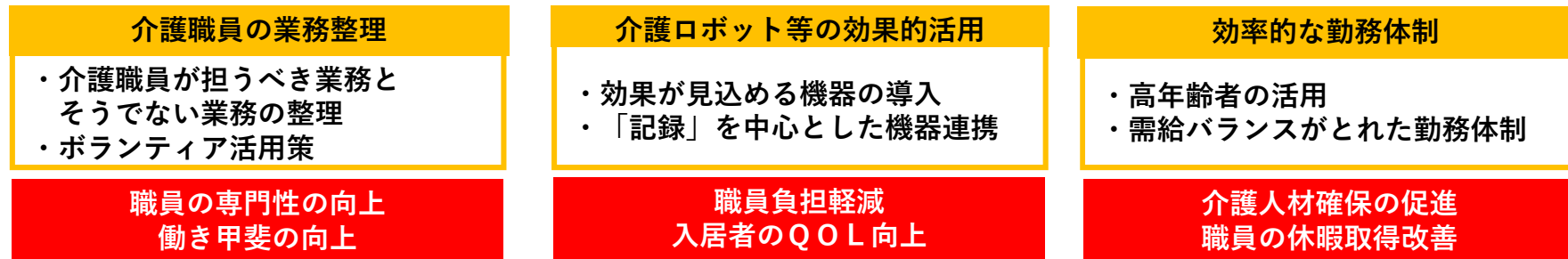
「北九州モデル」の先進的介護の実現に向けて

～ これまでの取り組みの成果と課題を踏まえて、「北九州モデル」の目標像を具体化 ～



「北九州モデル」の先進的介護（人とテクノロジーの融合による新たな働き方モデル）の構築
～介護職員の負担軽減・介護の質の向上を図り、介護施設の生産性を高める～

「北九州モデル」（仮説）の実証 ～ 3つの視点 ～





介護ロボットマスター育成講習

【目的・概要】

ロボット導入による介護職員の負担軽減等を図るためには、ロボット技術を使いこなせるリーダー的存在が介護現場に配置されることが重要。

そのため、機器の特性や使用方法などを習得し、適切にロボットを選択・活用できる人材の育成を目的として、北九州市介護ロボットマスター育成講習を実施。

《平成29年度》

- ◆対象者 実証施設の介護職員等
市内の特別養護老人ホームの職員
- ◆内 容 ①介護ロボットの導入目的の学習
②メーカーによる実機を使った操作演習
③グループワークによる作業手順書作成
- ◆修了者 2回、41名



《平成30年度》

- ◆対象者 初級：市内の特別養護老人ホーム職員
中級：初級講習の受講者
上級：中級講習の受講者
- ◆内 容 初級：介護ロボット等を活用した業務の学習
中級：介助手順の標準化、介助機器の使用方法
上級：マネジメントとその具体的方法 等
- ◆修了者 3回、52名

